

新  
修

## 舞鶴市史編さんだより

第6号

発行日/令和8年  
3月31日

## 文化遺産美術工芸(彫刻)の調査はじまる

舞鶴市市史編さん委員会 田中 健一  
文化遺産部会委員

新修・舞鶴市史「資料編／文化遺産」では、地形・地質、絵図・地図、美術・工芸、建造物、民俗から舞鶴の歴史を読み解きます。

令和7年12月から、美術・工芸、建造物のうち彫刻の調査を開始しました。舞鶴市には国・府・市の指定文化財やすでに全国的に知られる像も多くありますが、今回の市史編さんでは、これらも含め、まずは出来る限り網羅的に一体でも多くの調査を進めます。毎回の調査では、サイズや形状、造像技法、保存状態、安置場所などを観察記録し、写真を撮影する、さらに伝来地の地理的状况を確認していきます。

悉皆的に調査を進めることで、これまで彫刻史に位置付けられていなかった像の存在が見出され、既知の像も現在の研究水準から新たな知見が得られます。また、悉皆調査の記録は防犯・防災のための基礎台帳を整備する意義も持ちます。

仏像や神像は、それらを守り伝えてきた当地の人々の意思や努力を示す存在です。舞鶴の文化遺産がさらに未来に継承されるため、ささやかな一助となることを願いつつ調査に取り組みたいと思います。



大聖寺(北吸)における彫刻調査の様子



天台寺(天台)における彫刻調査の様子





# 舞鶴の土地所有から「近代」をみる

舞鶴市市史編さん委員会  
委員 児玉 圭司

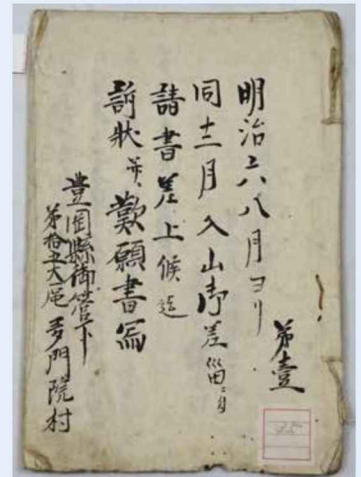
江戸時代の日本において、山々の多くは特定の誰かのものではなく、村人が自由に立ち入り、生活に必要な用材・薪・秣(まぐさ)・茸・果実などを採取できる場所でした。明治以降、このような形で土地を利用する権利は入会権(いりあいけん)と呼ばれるようになります。

一方で明治時代には、山々も含めた土地が個人や村、あるいは国のものになり、売買も認められます。その結果、山々に立ち入り生活に必要な品々を採取する資格(権利)をめぐって、全国で多くの紛争が発生しました。

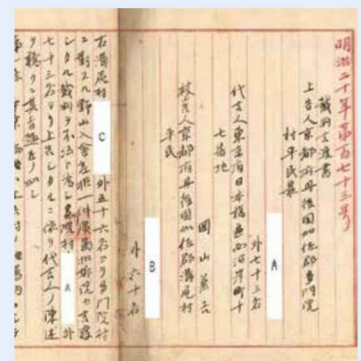
現在の舞鶴市域も例外ではありません。たとえば 資料1は多門院村がまとめた記録で、明治6(1873)年に溝尻村との間で祖母谷の「野山立入」をめぐって生じた紛争のことが記されています<sup>1</sup>。この記録からは、溝尻村が「地券の交付を申請するにあたり多門院村・堂奥村と協議したところ、多門院村から、溝尻村の立ち入り可能な場所は祖母谷の一部のみであると言われ、合意が得られない」と主張したことがわかります。地券の交付、つまり土地の権利(所有者)を確定する過程で生じた紛争だったのです。

この争いは長期間に及びました。本件は、やはり明治時代に生まれた裁判制度のもとで解決が図られ、最終的には明治20(1887)年に大審院(現在の最高裁判所)が判断を下しています(資料2-1、2-2)。それによると、土地自体は多門院村の所有となったものの、溝尻村にはその主張通り入会が認められました。

明治時代には、伝統的な慣行が、所有権など“近代的”な法制度のもとで読み替えられていきました。地域に残る史料からは、新旧制度の狭間にあって翻弄され苦闘した人々の姿とともに、「土地は誰かのもの」という、今を生きる私たちの「当たり前」が形作られる様子を目の当たりにすることができます。



資料1



資料2-1

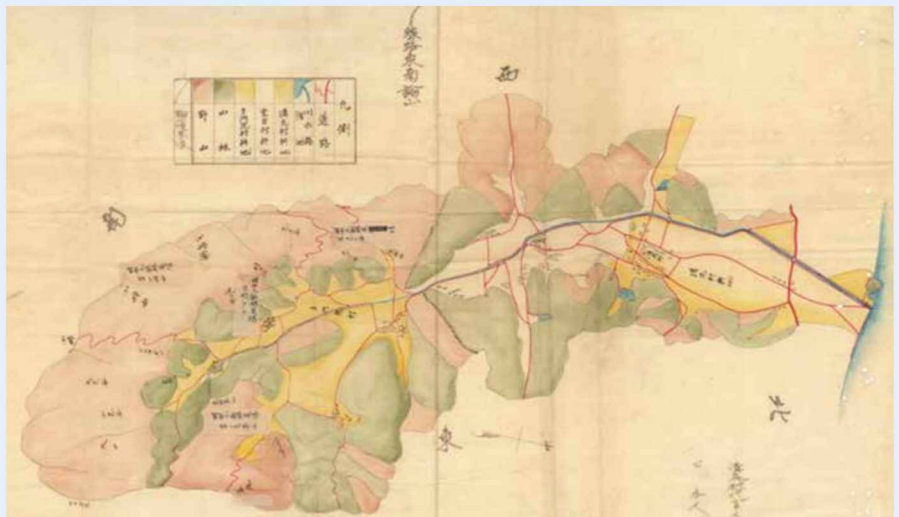
(資料1)

「明治六八月ヨリ同十二月 入山御差留  
二付請書差上候迄訴状并嘆願書写」  
(多門院区有文書)

(資料2-1、2-2)

「野山入会差拒一件 上告」(民事判  
決原本データベース、事件番号:1887年  
第000173号、簿冊番号:40000012、  
簿冊内番号:0051および0052)(国際日  
本文化研究センター)

<sup>1</sup>本事件については、東昇・菱田哲郎編『京都府立大学文化遺産叢書 第14集 舞鶴・京丹後地域の文化遺産』(京都府立大学文学部歴史学科、2018年)所収、東昇「明治前期の多門院・溝尻の山論と裁判」37頁以下に詳しい。



資料2-2

# 舞鶴の記憶 [6]

## ～匂ヶ崎銅鐸の謎～

昭和14(1939)年、市内下安久地区から発見された2点の「匂ヶ崎銅鐸」は弥生時代後期1～2世紀頃の貴重な青銅製祭器です。

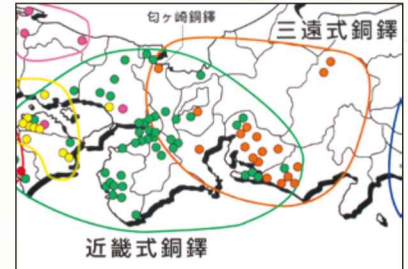
1号銅鐸は近畿式、下半部が欠けた2号銅鐸は三遠(東海)式という、異なる分布圏(右図 ● 近畿式、● 三遠式)を持つ形式が同じ場所から見つかった点が最大の特徴であり、この地が古くから東西文化の交差点であったことを裏付けています。

銅鐸のルーツは中国殷時代の「鈴・鐘」にあるとされ、朝鮮半島から小型銅鐸(10～15cm)として伝来しました。豊作などを祈る農耕祭祀に用いられたと考えられており、当初は吊り下げて音を鳴らす20～30cm程度の「聞く銅鐸」でしたが、次第に大型化し、儀式の威容を示す60～130cm超えの「見る銅鐸」へと変容しました。

匂ヶ崎の2点も復元すれば60cmを超える大型のものです。通常、銅鐸は祭祀後に集落から離れた山裾に埋納され、2個の場合は大小を組み入れて埋められたと考えられています。異なる形式が混在する理由については諸説あります。東海地方と関係を持つ有力首長が所有していた説、祭祀集団の統合を象徴する説、あるいは、近畿の中央勢力による政治的な配布説などが挙げられます。

現在、匂ヶ崎銅鐸の実物は東京国立博物館に収蔵されていますが、市郷土資料館の精密なレプリカは、当時の高度な鑄造技術と今なお解明されない謎に満ちた古代のメッセージを私たちに問いかけています。(YH)

※江戸時代の地誌『丹哥府志』の記述のなかに、「由良村から大小重なった2個の銅鐸が出土して1つを官に納めた」という記載がありますが、現在は所在不明となっています。匂ヶ崎銅鐸は民家の土蔵を取り壊した屋根廃瓦積みの中から見出されたものであり、由良村が旧加佐郡で田辺藩領内だったこと、由良川下流域の弥生遺跡の多さなどを考慮すると、実は匂ヶ崎銅鐸が由良出土銅鐸である可能性もあります。



銅鐸分布図



郷土資料館で展示中の匂ヶ崎銅鐸  
左:1号(近畿式)、右:2号(三遠式)

### 取組状況(令和7年11月～令和8年1月)

文化遺産部会では、美術・工芸グループにおける西地区を中心とした11寺院の仏像や掛け軸、襖絵などの現地調査や、絵図・地図グループにおける毎月の定例研究会が実施されました。また、現代部会及び考古・古代・中世部会における刊行物の構成や執筆者に係る協議、現代部会の引揚港グループにおける資料のデータベース化や目録整備などの現地調査や、近代部会における京都学・歴史館での資料調査が実施されました。

市史ボランティア活動では、金村家文書のデータベース化(写真撮影、目録作成など)が終了し、木船藤左工門家文書の調査に移行しました。

さらに、企業活用型訓練実習ということで学生を受け入れ、資料調査等のサポートをしていただきました。

7年度における各取組(予算規模は820万円)は概ね計画通り進捗しており、引き続き8年度は、分野編「引揚港」、資料編「文化遺産/地形・地質」及び資料編「考古・古代・中世」の9年度刊行に向け、詳細調査や本格的な執筆活動に入っていきます。



インターンシップ学生による資料調査

# 市史編さん日誌

令和7年11月～令和8年1月（主な活動）

11月・12月・1月	市史ボランティア活動各月2回実施 古文書等調査（金村家文書・木船藤左工門家文書）、市史資料写真撮影	
11月5日	文化遺産部会 地図・絵図グループ研究会 （上杉和央委員ほか3名、「吉田初三郎画 舞鶴図絵」）	
11月6日	近代部会 児玉圭司委員 既刊市史資料調査	
11月11日	近代部会 児玉圭司委員 京都学・歴彩館収蔵資料調査	
11月15日	京都府立大学古文書調査（金村家文書等） （近世、近代部会東昇委員、近代部会池田さなえ委員ほか）	
11月20日	市史編さん委員会 現代部会 第3回会議 （上杉和央部会長ほか委員5名、通史編「平成の舞鶴」の構成等）	
11月25日・27日	京都職業能力開発短期大学校からインターンシップ受け入れ	
12月1日	新修・舞鶴市史編さんだより第5号発行	
12月1・2日	文化遺産部会 美術・工芸（絵画・彫刻）グループ調査 （田中健一委員ほか4名、本行寺ほか7寺院の1次調査）	写真 ①②③
12月4日	文化遺産部会 地図・絵図グループ研究会 （上杉和央委員ほか3名、「真倉村之内字一之瀬山崩荒所之図」）	
12月10日	市史編さん委員会 考古・古代・中世部会 第3回会議 （加藤晃委員ほか4名、テーマ・章立て構成等）	
12月13日	田辺城跡第34次発掘調査現地説明会（市民会館跡地） 主催：（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	
12月23日	木船藤左工門家文書の借用	
令和8年 1月7日	文化遺産部会 地図・絵図グループ研究会 （上杉和央委員ほか3名、「竹屋町／寺内町 裏川筋絵図面」）	
1月8日	近代部会 児玉圭司委員 京都学・歴彩館収蔵資料調査	
1月10～17日	京都府立大学古文書調査（木船藤左工門家文書等） （近世、近代部会東昇委員、近代部会池田さなえ委員ほか）	
1月11・12日	文化遺産部会 美術・工芸（彫刻）グループ調査 （田中健一委員ほか3名、天台寺・興禅寺・大聖寺の2次調査）	
1月20～22日	京都府ミュージアム連携事業 資料写真撮影・実習に参加	写真④
1月31日～ 2月3日	現代部会 引揚港グループ資料調査 （黒沢文貴委員ほか7名）	

[発行] 舞鶴市

生涯学習部文化振興課（市史編さん係）

〒624-0853 舞鶴市字南田辺1番地 舞鶴西総合会館2階

TEL：0773-68-9556 FAX：0773-77-1823

Eメール：history@city.maizuru.lg.jp